

腎臓内科

1. 目的と特徴

臨床研修2年を修了し、腎臓内科を専門として選択した医師に対し、内科医としての基本技能の向上と、病態生理、エビデンスに基づいた考え方についてさらなる臨床の研鑽をすすめ、その土台の上に腎臓専門医としての技能習得をめざす。さらに患者中心の医療の実績をめざし臓器を治療するのではなくヒトを治療するための高度な臨床医の育成をめざす。

腎臓専門医としては、腎臓の生理的役割および構造上の特徴を理解し、水-電解質、酸-塩基平衡の理解、腎炎・ネフローゼ症候群の病態の理解および診断・治療、慢性腎不全の病態の理解と維持期の治療、慢性腎不全の合併症としての高血圧・動脈硬化の病態・治療、慢性透析の導入期の治療（血液透析、腹膜透析とを含む）および維持期の管理、慢性維持透析の合併症の病態理解と治療、腎臓移植医療など、臨床腎臓内科専門医として診断、治療に必要な知識、検査手技技能の習得および最新の治療をめざす。さらに腎疾患患者の急性期、慢性期および救急医療と幅広い臨床腎臓内科専門医の育成を目標としている。

後期臨床研修中の、およそ2年間は協力施設への出向を義務付けている。そこでは、地域中核病院での腎臓内科医として勤務してもらい、外来、入院主治医、透析室の管理等を経験できるように配慮している。出向先の病院全てに、我々の施設の所属者が指導医として最低2名は常勤しており、大学病院とは異なる地域に密着した腎臓疾患や一般内科疾患の治療が経験できる。

希望があれば、研究もおこなうことができ、基礎研究と臨床病態に基づいた研究のデザイン、実行、論文作成と個人の能力に応じて指導している。ほとんどの入局者が、医学博士を取得している。

2. 指導スタッフ

教授・基幹分野長	星野純一
特任教授（血液浄化療法科）	土谷健
准教授（血液浄化療法科）	花房規男
講師	唐澤一徳
講師（移植管理科）	海上耕平
準講師（血液浄化療法科）	川口祐輝
助教	片岡浩史
助教 医局長・班長	眞部俊
助教 外来医長	小林静佳
助教	眞壁志帆
助教 病棟長・班長	潮雄介

3. 研修施設

基幹施設：東京女子医科大学病院内科学講座 腎臓内科分野（本院 腎臓内科）

研修協力施設（関連施設）：東京都保険医療公社大久保病院、横浜労災病院、東京労災病院、済生会川口総合病院、済生会加須病院、戸田中央総合病院、東和病院、竹田総合病院、新宿石川クリニック、日高病院、足立医療センター、八千代医療センター

4. 研修カリキュラム

A：一般目標

患者中心の医療の実践をめざし臓器の治療ではなくヒトを治療するための高度な臨床医の育成をめざす。そのため内科医としての基本技能の向上と、病態生理、エビデンスに基づいた考え方についてさらなる臨床の研鑽をすすめ、その土台の上に腎臓専門医としての技能習得をめざす。

B：行動目標

- 1) 内科診療に必要な診察技術、カルテ記載法、診断の進め方を習得する。
- 2) 内科診療に必要な治療の基本的な概念と具体的な治療について習得する。
- 3) 腎臓専門医としての、特殊性を理解し診断、治療を行えるようにする。
- 4) 透析専門医としての透析医療の専門的な知識、手技を習得し、内科および腎臓疾患の治療の幅を広げる。
- 5) 医療の質を高めるためにチーム医療の大切さを理解し、臨床の現場でチーム医療を効果的に行うようにする。
- 6) 臓器の治療ではなく、ヒトを治療するために全身的な立場から治療を実践する。
- 7) 高度医療を実践するために、新たな治療を含めた治療について有効性と危険性を十分に指導医、スタッフと検討、実践する。
- 8) 自己の医療の質を上げるために専門医取得、学会の報告、論文の作成を積極的に行う。

C：研修内容概略

研修内容概要

- ・腎泌尿器科系の超音波検査
- ・腎機能検査の実施と評価
- ・腎生検術
- ・腎生検標本の読影
- ・透析導入のためのカテーテル挿入術
- ・血液透析の透析回路の組み立て、内シャント穿刺、表在化動脈の穿刺、上腕動脈直接穿刺、血液透析の施行内シャント造設術への参加
- ・腹膜透析の導入・管理
- ・高度集中治療、腎臓移植の内科的管理
- ・入院要約の記載

<病棟で扱う疾患>

腎炎(急性糸球体腎炎・慢性糸球体腎炎、間質性腎炎)

ネフローゼ症候群、急速進行性腎炎症候群

電解質代謝異常症、尿細管疾患

急性腎不全、慢性腎不全(保存期及び各種透析療法への導入)

全身疾患に伴う腎病変

(血管炎、膠原病-SLE、PSS、糖尿病、アミロイドーシス、多発性骨髄腫)

遺伝性疾患(多発性嚢胞腎、アルポート症候群、基底膜菲薄化症候群)

血液浄化療法(血液透析、血液濾過、腹膜透析、血漿交換、急性血液浄化療法)

慢性維持透析患者の合併症

(透析困難症、高血圧症、心血管系合併症、二次性副甲状腺機能亢進症)

高血圧症(腎性高血圧症、腎血管性高血圧症、二次性高血圧症)

<治療法の取得>

食事療法(腎炎、ネフローゼ症候群、慢性腎不全などの病態別に)

運動療法、日常生活指導

薬物療法(利尿薬、副腎皮質ステロイド薬、抗凝固薬、抗血小板薬、免疫抑制薬、降

圧剤、抗血小板薬等)
輸液療法、腎臓移植の免疫抑制療法
血液浄化療法

腎機能低下時（透析も含む）の薬物選択に精通する。

D：週間予定

	午 前	午 後
月		16：00～班回診
火		16：00～班回診
水	9：00～12：00 教授回診	14：00～15：00 病理カンファ 16：00～17：00 医局会
木		16：00～班回診
金		16：00～班回診
土		

E：評価

プログラム管理者、腎臓内科スタッフおよび指導医より行う。

5. 後期臨床研修修了後の進路

助教として大学に残り引き続き診療・研究・教育に従事する、関連病院の中堅医師として診療にかかわるなど、それぞれの特性とそのときの個人の社会的事情も考慮し、スタッフとの話しあいによって決定する。

6. 学位

積極的に指導しており、教授・基幹分野長の指導のもと学位取得が可能である。臨床大学院も受け入れ可能であり、学位が取得できる。

7. 認定医・専門医

以下の専門医の取得を義務づけている。

日本内科学会総合内科専門医

日本腎臓学会認定専門医

日本透析学会専門医

8. 問い合わせ先

〒162-8666 東京都新宿区河田町8-1

東京女子医科大学腎臓内科 医局長：眞部俊

電話：03-3353-8111（内線 33511）

FAX：03-3356-0293

E-mail：manabe.shun@twmu.ac.jp

腎臓内科ホームページ：<http://www.twmu.ac.jp/NEP/>